

第5学年 国語科学習指導案

研究テーマ

自分の考えを伝え合い、自分の考えを再構成していく中で、新たな問いをもつ児童の育成

単元を通して育成したい子どもの姿

目的意識・相手意識をもち、説得力のある意見文を書くにはどうすればよいかを試行錯誤しながら考え、繰り返し再構成していく中で、自ら「書き方」を獲得する姿

1. 単元名 よりよい学校生活のために ～二本松南小を百倍ステキにするプロジェクト～

2. 単元の目標

- (1) 自分たちの身の周りにある問題点から、感じたことや考えたことから書くことを選び、集めた様々な情報の中から材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。 【思考力、判断力、表現力B(1)ア】
- (2) 事実と感想、意見とを区別して書き、自分の考えが読み手に伝わるように書き表し方を工夫して意見文を書くことができる。 【思考力、判断力、表現力B(1)ウ】
- (3) モデル文を基に、文章全体の構成や展開、記述が明確になっているかなど、構成や文章の書き方に対する感想や意見を伝え合い、自分や友達の文章のよいところを見つけることができる。 【思考力、判断力、表現力B(1)カ】
- (4) 粘り強く問題点に向き合い、読み手が納得する意見文を進んで表現しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

3. 単元について

本単元で、児童は今年度2回目の意見文を書く経験をする。前回は、「読み手が納得する意見文を書こう」という単元で、二本松市はみんなが過ごしやすい街になっているかについて、調査活動や疑似体験から、事実に基づいた自分の主張をまとめ、意見文に書いた。単元全体を通して、相手意識や目的意識を明確にもたせながら、問題を自分事としてとらえ、校長先生に読んでもらうという単元のゴールを設定することで、児童が最後まで意欲をもちながら意見文を書き上げることができた。また、読み手が納得する文章は何かについて「構成」や「表現」の学習過程の中にグループでの「共有」を入れ、どう書けば読み手が納得するか、意見文の書き方のよさを「書き技」として児童が話し合いの中から見付けた。そして「書き技」を使いながら、一人一人が意見文を書くことができた。

その一方で、書き方のよさとは何かについて「共有」場面で話し合う際の視点が曖昧だったという課題も見つかった。友達の作品のよさをたくさん見つけて話し合うことはできるが、話し合う際の根拠となる明確な視点が必要であることがわかった。

これらの課題を基に、本単元において児童に身に付けてほしい「書き技」を教師が意図的に3つのモデル文の中に入れ込み、新たな「書き技」として児童が見つかる。さらに全体の話し合いの中で「構成」と「表現」に分類し、本単元の新たな「書き技」として位置付けし、「構成」ではどの技を使い、「表現」ではどの技を使えばよいかを明確にする。児童には試行錯誤しながら獲得した「書き技」を他の場面でも使える汎用的な力として意識させながら身に付けさせたい。

また、今回も単元全体を通して学びを振り返り、何ができて何ができなかったかを明確にした。その際には前回の授業でも使用してきた「振り返りのキー」を活用する。自らの学習状況を振り返ったり、次の学習に期待したいことを振り返ったりすることで、学びが連続していくことができるようにしたいと考える。

○ 今回の単元名は、「二本松南小学校を百倍ステキにするプロジェクト」である。第一次の題材の設定では、南小のよい点と改善点について話し合い、高学年としてもっと南小をよくしたいという思いを高めた。児童は「廊下・階段の歩き方」「あいさつ」「時間を守る」「給食の

残が多い」の4つの課題を見つけ、自分が取り組みたい課題を一つ選択し、グループを作成した。情報の収集では課題の現状をグループごとにアンケートやインタビュー、廊下や階段の歩き方を実際に調査したり、給食の残りを自分たちで測定したりするなど実際に目で見たり、人に聞いたりして課題と向き合う。そして、見えてきた課題を解決するために、自分たちでできることは何かについて座標軸を使いまとめる。

- 第二次では、本単元で身に付けさせたい書き方を、教師が作成するモデル文の中に入れ込む。児童は、三つのモデル文を比較することで、書き方のよさを「書き技」として気付くことができる考えた。さらに、書き技は「構成」と「表現」の2つのグループに分類し、「構成」や「表現」のそれぞれの段階で、どの書き技を使えばいいかが明確になるようにした。また、本単元においても、「構成」と「表現」の段階に友達との「共有」を行い、「書き技」やモデル文を、書き方のよさについて話し合う際の視点とし、読み手が納得するための意見文を、一人一人が試行錯誤しながら最後まで粘り強く書くことができるようにする。
- 第三次では、出来上がった意見文を友達と読み合うことで、自分の成長を感じることができるようになりたい。単元の終末には、出来上がった意見文を6年生に読んでもらったり、校内の放送を使って全校生に発表したり、学校のホームページに掲載したりすることで多くの人に発信し、読んだ感想をもらうことで書き上げた充実感をもたせていきたい。

4 単元計画（全12時間）

次	時	・学習活動（目指す子どもの姿）	※評価規準
一	1	・学校生活を振り返り、二本松南小のよい点や課題について話し合うことで、二本松南小を百倍すてきにする方法について考え、意見文を書くための学習の見通しをもつ。	※学習課題をとらえ、意見文を書くために必要な情報を選び問題点を明らかにすると共に改善点について自分の考えをまとめようとしている。【思考・判断・表現】
	2	・自分が調べてみたい課題についてその現状をグループ	
	3	ごとに調査する。	
	4	・調査してわかったことを基に、グループで改善点について座標軸を使って話し合い、自分の考えを整理する。 ・必要な情報があればもう一度情報を集める。	
二	5	・3つのモデル文を比較することで、書き方のよさを話し合ってみつけ、「書き技」に分類する。（本時）	※既習事項を生かし、どこに何を書いたらよいかを考え、構成や主張の場所を考え、理解している。【知識・技能】 ※集めた材料を分類したり、関係づけたりして読み手を納得させるための理由や根拠を選んで書いている。【思考・判断・表現】 ※共有を通してよりよい書き方を工夫し、粘り強く意見文を書こうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
	6	・自分で構成メモを作る。	
	7		
	8	・自分で作った構成メモを、グループの友達と読み合い、「書き技」や「モデル文」を基にそのよさを共有する。	
	9	・見直した構成メモを基に、意見文の下書きをする。	
	10	・下書きした文章をグループの友達ともう一度読み合い、「書き技」や「モデル文」を基にそのよさを共有する。	
11	・文章を推敲し、清書する。		
三	12	・出来上がった意見文を友達と読み合い、意見文の書き方について振り返る。 ・6年生に読んでもらい、感想をもらう。 ・昼の放送で取り組みを発表する。	※説得力のある意見文になったのかについて感想を伝え合い、自分や友達の文章のよいところを見つけている。【思考・判断・表現】

5 本時の研究の視点

【視点2】自らよりよい「書き方」を獲得させる共有の場の設定

6 本時で働かせる見方・考え方

○ 本単元で身に付けさせたい書き方を入れ込んだ3つのモデル文を比較することで、書き方のよさをグループで話し合い、出し合う。さらに、グループで見つけた「書き技」の中から「構成」についてそのよさを学級全体で共有する。

7 本時のねらい

3つのモデル文を比較することで、書き方のよさについてグループで話し合い、さらに「構成」の「書き技」を学級全体で共有し合うことができる。

8 本時の学習過程 (5/12)

学習活動・内容	時間	◆教師の支援 ※評価
1 本時の課題をつかむ。 ④ 福田小の友達が書いた意見文の書き方のよいところはどこかな。	5	◆ 前任校の児童が書いた意見文から、本時では書き方のよさをグループ見つけ、全体でも話し合うことを確認する。 ◆ モデル文は三枚あるので、事前に読ませておき、個人で「書き技」を見つける。「書き技」が入っていると思われるところに線を引かせ、付箋にはそのよさを書かせ、グループでの話し合いに生かす。
2 個人で考えた「書き技」のよさをグループで共有し、考えを広げる。 ○ 三部構成はわかりやすい。 ○ 具体的な数値が入っているから説得力がある。 ○ 最後に呼びかけがあるので、インパクトがある。	20	◆ 3つのモデル文の中のどこに主張が入っているか全体で確認することで、そのよさを考える活動につなげる。 ◆ 見つけた「書き技」を説明する際には「どうしてよいと思ったか」について根拠を明確にして説明をする。
3 グループで出た「構成」の書き技の中から主張をどこに入れるかで、どんなよさがあるかについて考えを深める。 ○ 最初に主張があると何をいいたいか分かって読むことができるからいい。 ○ 最初と最後に主張があるとインパクトがある。 ○ いろいろな作戦がわかってから、最後に主張があると納得した。	15	◆ グループで意見を交わしながら、一緒に考えたり、検討したりして自分の考えを再構築する。 【視点2】 ◆ グループでたくさんの意見を出し合ったことを称賛し、全体では「構成」について絞って「書き技」のよさについて話合うことを確認する。 ◆ グループでの話し合いを基に自分が使いたい構成の「書き技」を選ぶ。
4 振り返りキーを基に、本時の振り返りをする。 ○ △さんの考えを聞いて「書き技」をたくさん見付けることができた。	3	◆ 3つの主張の型に「名前」を子どもたちと一緒に名付け、次時以降で使えるようにする。 ◆ 振り返りキーを使って本時の学びを振り返り、次の学習でどんなことをしたいかを考えさせることで、新たな問いをもつことができるようにする。
5 次時の学習の見通しをもたせる。 ○ 今度は主張を最初に書いてみたい。	2	※ 説得力のある意見文のよさとは何かについて友達と考えることで、次回の活動につなげ、自分の考えを再構成している。(発言・ノート)

